

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するとともに、オンライン授業も活用し授業力の向上を図る。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションについては、一定の学習効果を感じている生徒が見られる。また、反転授業のノウハウは本校にはあるので、更に発展させていく下地はある。	【満足度指標】(生徒) アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにオンライン授業を活用して、生徒の学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにオンライン授業により学習効果が高まった(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	感じている 18.9% やや感じている 56.0% あまり感じていない 20.2% 感じていない 4.9% 感じている+やや感じている=74.9% B評価 (昨年度) 感じている 20.0% やや感じている 48.5% あまり感じていない 25.6% 感じていない 6.0% 感じている+やや感じている=68.5% C評価	「感じている」+「やや感じている」が昨年度より6.4ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面に改善してきたことを意味している。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実施し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしてきた結果である。今後、更に授業改善を実施していきたい。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	「思考を必要とする発問」とするための発問の工夫や、生徒の活動の中で「表現する場面」の設定を、積極的に進めている。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場面を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面(a多く+b時々)設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a多く設定26.5% b時々設定71.4% cあまり2.0% d全く0.0% a+b=97.9% A評価  昨年度 a 31.9% b 61.7% c 6.4% d 0.0% a+b=93.6% B評価	a評価+b評価が97.9%と昨年度より4.3ポイント上回ったが、a評価(多く設定)について見れば5.4ポイント下降している。コロナ禍で、授業時間確保が急務であり、時間的に余裕をもって授業に臨むのが難しい中でも、授業改善を図り、生徒自ら主体的能動的に学ぶ力をつけようとした結果であると思う。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	家庭学習時間を着実に伸ばしているが、平日自宅学習2時間を超える生徒の割合はまだまだである。いずれの学年も、朝学習や宿題と関連させることにより、家庭学習の充実を図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	aよく当てはまる14.2% bやや当てはまる58.8% cあまり23.6% d全く3.4% a+b=73.0% C評価  新規のため昨年度のデータなし	コロナ禍で、例年なら行われているはず家庭学習への意識付けの指導が、1学期前半は十分な時間が確保できなかった。今後はホーム担任、授業担当者、部活動顧問など様々な教員から日々の授業に対する予習・復習の徹底や、適切な課題設定を行い、自発的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	【1年】 思考する朝学習と漢字学習の実施で、国語の「読む」「書いて表現する」力に結びつけたい。また数学は問題集からの小テスト→再テスト→学習会の流れで基本的な学力を向上させたい。 【2年】 「思考の時間」を含めた昨年度の活動によって、主体的に朝学習に取り組む姿勢は確立している。今年度は共通テストも見据えて、理系・文系それぞれに応じた科目・内容を設定して、授業との効果的な連動を実践している。 【3年】 進路実現のために各教科が精選した学習内容を、コースの特性を踏まえて用意する。特に、基礎学力の確認と学習時間を活用する	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組む、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	80.4% A評価 昨年度 78.6% B評価	朝学習に積極的に取り組んだ生徒の割合が、昨年同時期より3学年全体でやや増加した。朝の小テストだけでなく、再テストや学習会の取り組みを通して、しっかり準備をしてテストに向き合うことの重要性に気づいた生徒が増えたためであると思われる。しかし、学習内容の定着に向けての意識はまだ低い部分があり、テストに追われているという意識を持った生徒がいることも否めない。着実にスモール・ステップを踏まえて、主体的に取り組む生徒をさらに増やしていきたい。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.2

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	①	進路指導課 学年 教科	卒業時の進路達成を意識した、高い志望を掲げさせる方策が奏功し、全学年で高い数値を更新している。今後もこの取組を継続しつつ、その志望の実現のための能動的な学習習慣の確立について積極的に働きかけていく。 3年では4年前の進路志望指導の変革以来、高い志を掲げ、進路結果につなげていく生徒が年々増加している。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上する。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 50人以上 D 50人未満	【1年】 9 3 . 4 % B評価 【2年】 8 2 . 8 % D評価 【3年】 1 2 2名 A評価 R01 H30 1年 9 4 . 3 % 9 0 . 1 % 2年 9 0 . 1 % 8 9 . 5 % 3年 9 9 . 0 % 8 3 . 0 %	1年は、休校再開後の文理選択指導や保護者対象の説明会の開催など、ほぼ例年通りの早期の進路指導を手厚く行い、進路意識の涵養と学習への意識付けを行っており、3年連続で90%を上回った。 2年は昨年度、90%を上回る高い数値であったにもかかわらず、85%を割り込む結果となった。原因として、コロナ感染症対策にともなう進路関係行事の計画変更や中止による指導機会の喪失や遅延があげられるため、今後の指導機会の充足により、高い志望を涵養していきたい。 3年は金沢大学以上を目標とする生徒の割合が、過去最高であった昨年度の3年生の37%を大きく上回る46%となった。今後とも、この高い志を家庭学習の定着や学習時間の伸長につなげていく取組が重要である。
	②	進路指導課 学年 教科	現1年生:家庭学習の習慣を確立させながら基礎学力の定着を図る必要がある。 現2年生:国英数の総合力で近年の本校の平均値を上回る。全ての層においてさらに力をつけることにより、過去の高学力学年を超えていくことが期待できる。	【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	7月進研模試による ( ) 内は昨年同時期 【1年】 国語 4 7 . 4 (49.1) 数学 4 7 . 4 (50.1) 英語 4 3 . 4 (47.0) 【2年】 国語 4 9 . 0 (48.2) 数学 4 8 . 4 (47.1) 英語 4 6 . 4 (46.5)	7月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が45.5(昨年48.6)、2年が48.1(47.2)であり、1年は直近5カ年の最低値であった。昨年度に1年次の直近5カ年の数値が最高であった2年は、昨年度は上回ったものの一昨年度を下回ることとなった。今年度は、新型コロナウイルス感染症に係る休校期間が長く、入学後に「育てる」明倫の強みを十二分に活かすことができなかったため、今後の指導による伸長に期待したい。評価は11月の進研模試で判断する。
	③	進路指導課 学年 教科		【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	7月進研模試による全国偏差値54以上の生徒 ( ) 内は昨年度同時期 【1年】 1 6名 (36) 【2年】 4 3名 (35)	7月進研の結果、全国偏差値54以上の生徒は1年では16名、2年では43名であった。1年は平均偏差値と同様に前年度を大きく下回り4年前を除き直近5年で最少人数となった。1年においては、入学時に定員を下回った影響もあり下位層が多い構成となっているが、64以上の最上位層が2名いるなど、今後の進路志望指導、学習指導によって、中下位への支援を手厚く行いつつ上位層の強化をはかっていきたい。評価は11月の進研模試で判断する。
	④	進路指導課 学年 教科		【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満	年度末に報告	
				国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	年度末に報告		
				難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	年度末に報告		

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.3

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課	挨拶運動への参加保護者数が全生徒の約6割であり、学校行事、PTA行事への参加呼びかけに工夫が必要である。さらに今年は休校措置に伴い、前期の行事や取り組みが相次ぎ中止になっている。安全に取り組みができるようになった際に、積極的に来校いただけるよう企画・呼びかけを工夫する。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心を持ち、積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	7月現在、来校した回数が 5回以上0.8% 4回 1.9% 3回 14.4% 2回以下 82.9% 3回以上 17.1%	9月現在3回以上来校されている方が17.1%である。挨拶運動は中止、5月のPTA総会も書面表決、8月は明倫祭も非公開など感染症防止のため、多数来校ができない状況だった。2回以下が82.9%となったのもやむを得ない結果である。現在も安全な状況とは言えず、積極的に来校を勧めることは叶わないので今回、成果の分析はなじまない。この中において、保護者懇談や学年別説明会PTAの仕事などに来てくださったことを有り難く思うとともに、安全に留意し、活動の形を模索することが課題といえる。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	データ量が増え、最新の情報に更新されていないページが見受けられる。各課・学年に該当ページを周知し、更新手続きを積極的にしてもらうことで新しい情報の提供に努めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が A 100回以上 B 80回以上 C 60回以上 D 40回未満	9月15日現在の更新回数(限定公開を除く)128回 昨年度8月末で69回  学年便り、部活動、保健便り、学校日誌などこまめに更新している。さらに、明倫祭の動画など保護者生徒対象の限定公開も即日更新し、学校の様子を知っていただくよう努めている。	本校のホームページをよく閲覧しているという問いに「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した保護者が22.8%から、40.9%と増加している。更新の回数も増えたが、今年は休校や行事変更などが多く、情報源としてHPを見ていただけたと思われる。旬の情報を更新することで楽しく役立つものになるよう続けたい。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	様々な状況の中で、中途退部者が10%弱発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 生徒が加入した部活動を年間継続している。また、転部をした生徒も活発に活動している。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	9月現在 1年生 99.3% 2年生 76.9%  1,2年生の部活動の加入率が 88.1% B評価 昨年度 93.5% B評価	1年生は全員部登録をするようにしているが、初めから登録できていない生徒1名、退部後に次の部が決まっていない生徒が1名いる。2年生は最初から登録していない生徒が8名、途中退部が42名いる。2年生の途中退部生徒数が今年度の部登録時から2割の生徒が退部している。 課題として、生徒が日々の部活動に意欲を持ち、充実感・達成感を味わえるように活動や大会の結果を称えたり応援したりする機会を作る。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を充実させ、近隣商業施設・小中学校でのポスター掲示などの広報活動を活発にすることで、地域と連携を目指す。	生徒課	土日開催ということで、土曜日に本校で開催する1日目の来場者数が増加すると見込まれる。また、日曜日の県立音楽堂への来場者は保護者を中心とする見込みである。	【成果指標】(明倫祭来場) 地域への広報活動と、内容の充実により、1日目の小中学生と地域住民の来場者数を増やす。	1日目の来場者数のうち小中学生・地域住民が A 330人以上 B 300人以上 C 270人以上 D 230人未満	一般公開取りやめのためデータなし	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本校を会場に一日開催、保護者を含め一般公開を取りやめた。そのため例年と異なり生徒は準備した企画を保護者・一般の方に発表したり、おもてなしすることができなかった。 しかし、感染対策として多くの制限や条件の中で、短期間の準備であつたが生徒は各ホームの企画や発表をしっかりと成し遂げた。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、それでもできる範囲で活動していく。	図書課	地域の保育園に読み聞かせに行ったり、『放課後子ども教室』で小学生に本の読み聞かせを行ったりした。地域と連携した活動は評価も高く、一昨年度より1回行事を増やすなど生徒の自信と主体性を高めることにつながっている。	【成果指標】(生徒) 行動が制限される中でも、地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6～7回 B 年間5～6回 C 年間4～5回 D 年間4回未満  ※休校・自粛の現状を考慮して数値を設定した	年度末に報告 1学期中は実施できず。	コロナ禍の影響で、例年のように夏休み中の「放課後子ども教室高校体験」も「絵本リーディング自習」も実施できなかった。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.4

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	保護者や全職員による登校指導や、有志の生徒による挨拶運動により、挨拶をする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっていく。しかし、しっかりと声を出せる生徒が少ない。	【努力指標】(生徒) 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかりと声を出して挨拶をする生徒が増えている。	朝の挨拶運動で協力していただく中で生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかりと声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかりと声を出し挨拶できた生徒が ( ) 昨年度 良くあてはまる 26% (26%) やや当てはまる 57% (54%) 計83% (80%) A 評価	生徒の自己評価は高いが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きな声を出す機会が減ったためか、しっかりと声を出す生徒が少ない。しかし、自ら挨拶する生徒は徐々に増えていると感じられる。新型コロナウイルス感染症の影響が解消された時には、進んで自らしっかりと挨拶ができるように教員も見本となる挨拶をしていく必要がある。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	生徒の規範意識は高いものの、僅かではあるが、頭髪の加工や制服の不適切な着用で規律を守れていない生徒がいる。	【努力指標】(生徒) 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増えている。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が ( ) 昨年度 良くあてはまる 60% (65%) やや当てはまる 37% (30%) 計97% (95%) A 評価	制服着用はしっかりとできていると感じられるが、女子でスカートやひざ上になっている生徒もいる。頭髪では、男女共通で前髪の長さ・髪色で指導を受けている生徒もいるが、指導を受け入れ再検査に応じている。時代の流れなのか髪型でツーブロックのような髪型が見受けられるようになり、指導の基準の検討が必要になってきている。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	規範意識自体は高いが、イヤホン着用や並列走行などに違反意識が薄い。細かな指導と啓発活動が急務である。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が ( ) 昨年度 良くあてはまる 74% (72%) やや当てはまる 22% (24%) 計96% (96%) A	生徒の自己評価では交通ルールを守っている意識が高い。石川県警からの交通指導状況でも4～7月で7件と少ないが、登下校時にイヤホン着用や並列走行が見受けられることがまだまだある。生徒課を中心に学年団・部活動が連携して粘り強く声掛けを継続する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことへの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	全校で取り組んでいる校外清掃や部単位での校外活動を行っており、今後もこうした機会を通じ地域貢献意識を高める。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を通して地域貢献できていると感じ、積極的に活動に取り組んでいる。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 40%未満	年度末に報告 1学期中は実施できず。	新型コロナウイルス感染症のため、例年通りに部や生徒会企画のボランティア活動ができず、野々市駅・中央公園・学校周辺の清掃ボランティアのみ実施予定である。(10月9日予定) 今後、新型コロナウイルス感染症の状況が改善された場合に、できる範囲で地域貢献につながる活動に取り組む。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人とかかわることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	よくあてはまる41.1%+ややあてはまる47.6%=88.7% B評価 昨年度 よくあてはまる47.6%+ややあてはまる39.1%=86.7% B評価	昨年度7月の調査と比べ、「楽しい」と感じる生徒が微増した。4・5月の臨時休校があったが、平常に戻り友達との関わりを通して楽しく感じられたようである。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対応をしている。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 25.5% + b 72.5%=98.0% A評価 昨年度 a 8.3% + b 81.3%=89.6% B評価	生徒がアンケートなどで申告するすべての問題について、素早く対応することができている。が、解決に至るのが難しい問題もある。校内の連携と関係機関の協力を得て、解決に向かうことができるよう努めていきたい。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	昨年度、歯科検診の結果で要精検者175名中、受診者数は91名で51%に留まっている。生徒には個別指導、保護者には受診勧告書で医療機関への受診を勧めているが、歯科については受診率が高まらない。	【成果指標】(生徒) 医療機関の受診を勧められた生徒が自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満	検診終了が9月15日のため、集計結果はまだない。	コロナ感染の休校により、検診最終日が9月15日だった。現在、受診を促している。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が、1年生の朝読書実施期に比べると格段に少なくなっている。これは自発的に読書をしようという生徒が少ないことを表している。「読みたい本がない」という意見も特に1年生から聞かれた。また、他校に比して授業での図書館利用回数が少なく、授業に関連づけた貸出が非常に少ないことも事実として存在する。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増えている。授業に関連した図書展示などによって学習と読書を関連づけることで、来館・貸出が増加する。 ※休校期間を考慮して数値を設定した	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 4.0冊以上 B 3.5冊以上 C 3.0冊以上 D 3.0冊未満	年度末に報告	休校明けから学習室利用者は多い。昼休みや放課後の入館者は昨年よりも増えたという印象である。今後はこれを貸し出し増につなげていきたい。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.5

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める	副校長 教頭	部活動指導や分掌業務などで、時間外勤務が80時間を超える教職員が1ヶ月あたりの平均で3.6人、そのうち100時間を超える教職員が1.1人となっている。	【成果指標】(教職員) 時間外勤務が80時間を超える教職員が0になる。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1.0人未満 C 2.0人未満 D 3.0人以上	(単位：人) 4月 5月 6月 7月 8月 平均 80時間以上 0 0 1 2 0 0.6 うち100時間以上 0 0 0 0 0 0 昨年 80時間以上 5 6 7 7 3 5.6 B評価	新型コロナウイルス感染症に関する臨時休業により、4・5月は在宅勤務を多くの職員が実施するとともに学校再開後も部活動に多くの制約があったこともあり、大きく改善している。ただし、特殊な状況の下での結果である一方、消毒等の新たな業務も発生しているため、業務の削減や効率化、負担の平準化をめざし、行事の精選や業務内容や方法の見直しなどを進める必要がある。